

2025(令和7)年度

文化学部 専門教育科目 「京都文化フィールド演習」 募集要項



本物に触れる



京都文化を体験



伝統行事等の運営・参加

「京都文化フィールド演習」について

教室での講義(座学)・学習と、京都の街中で実施するフィールドワークでの実践型演習とで構成する、京都文化学科独自のユニークな演習科目です。

学生ひとりひとりが京都の伝統行事や宗教神事の運営・参加、職人の工房・地場産業における現地実習、また社寺、遺跡などへの実地踏査を行います。

目の前のテーマに集中して取り組むことで、体験を通じて京都とその文化の一端を理解するとともに、地域社会の活性化に向けた思考・態度や観光事業への新たな視点の獲得を目指します。

日本文化・京都文化の真髄に触れ・体感し、真のおもてなしの心を身に付け、京都文化を自分の言葉で発信できる人になりましょう。

京都文化学科 必修科目 です。

いずれかのクラスを履修・修得しなければなりません。

▶クラス別一覧(申請書記入の際に必要です)

担当教員	クラス	開講期	曜日・時限	備考
小林 一彦	A	春学期	木・5	
桐村 喬	B	春学期	火・4	
山本 雅和	C	秋学期	金・5	
川島 智生	D	秋学期	火・4	
村上 忠喜	F	春学期	火・4	
マレス エマニュエル	G	秋学期	金・5	
彬子 女王	H	集中	集中	新2年次生以上対象のクラスです。 新1年次生は応募できません。 ※新2年次生で履修希望の学生は、 別途、POSTの案内を確認すること。
雲岡 梓	I	秋学期	火・4	
高橋 早紀子	L	春学期	木・4	
成田 智恵子	M	春学期	火・4	
中野 宏幸	N	春学期	金・5	
若村 亮	O	秋学期	木・5	

申請

【申請方法】

WEBによる申請(パソコン、スマートフォン等、WEBが利用できる環境が必要です。)

※WEBによる申請が難しい場合は、3月18日(火)16:30までに下記、文化学部事務室に問い合わせください。

■「京都文化フィールド演習」申請

<https://forms.office.com/r/FU4MDwgyWk>

※リンク先は、申請期間中のみオープンします。



(WEB申請フォーム)

申請期間:2025(令和7)年3月12日(水)10:00~3月21日(金)15:00まで(厳守)

※申請期間後の申請及び内容変更は一切認めません。

【受講クラスの発表:2025(令和7)年4月1日(火)】

WEB履修登録画面で、登録されているフィールド演習のクラスが受講するクラスになります。

※秋学期開講のクラスの合格については、電子掲示板 POST で案内します。

※履修登録は大学が行います。各自が登録する必要はありません。

※履修登録については、新入生オリエンテーションで説明します。

留意事項

(1) フィールドワーク実施に伴う支援

学外でのフィールドワーク1回の実施につき活動費を一部支援します。

受け取り方法等については、担当教員に確認してください。

(2) フィールドワーク実施に伴う拝観料等

実習・見学先等の拝観料・入場料等が必要な場合は、自己負担となります。

※「京都市キャンパス文化パートナーズ制度」の登録(無料)により、割引などの優待を受けることができる文化施設等があります。

(3) 授業に関する連絡

フィールドワークの実施をはじめ授業に係る連絡事項は、原則、授業内で伝達します。ただし、突発的な注意事項や連絡事項等が生じた場合、電子掲示板 POST を通じて伝達しますので、1日1回は確認するようにしてください。

※電子掲示板POSTについては、新入生オリエンテーションで説明します。

《問い合わせ先》

京都産業大学 文化学部事務室

TEL:075-705-1941

Mail:bunka-jim@star.kyoto-su.ac.jp

受付時間等:月~金 9:00~16:30(13:00~14:00は除く)、土 9:00~12:00

※日・祝日は閉室しています。

※上記時間帯でも業務の都合により、急遽閉室することがあります。

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員： 小林 一彦 専門分野：日本古典文学および 社会人基礎力育成 Twitter： 小林一彦ゼミ (@mrcb3kan)	＜この京都文化フィールド演習の特徴＞ 1, 京都が誇る「祇園祭」を通じて京 都文化の奥深さを知る 2, 世界規模の祭礼行事に参加し、観 光客への対応を現場で体験する 3, 地域のイベントを盛り上げ、チー ムで働く力を身につける
A		
定員		
約 20 名		

【このような学生におすすめです】※過去の授業の様子はX（旧Twitter）、YouTubeを参照。

京都のフィールドに出て学ぶ、ユニークで実践的な観光体験型の授業です。半分は大学、半分は現場。祇園祭では長刀鉾（なぎなたぼこ）とともに「くじ取らず」鉾2番の函谷鉾（かんこぼこ）、その運営に参加します。京都の中心、四条烏丸交差点の函谷鉾町はオフィス街で、現在は住民が一人もいません。地縁のある「通い町衆」の役員・地元の「企業町衆」のみなさんと連携協働し、「学生町衆」の一員となって、若い力で祭を担います。

世界規模の祭礼イベントを、最前線で成功へと導くやりがいのある仕事です。京都の伝統をしっかりと継承し、未来へ伝えるノウハウを現場で学び、成長する。世界で唯一の授業です。

イベントを動かす勉強を1年生からはじめたい、巨大な祭礼行事に関わりたい、ディープな京都を学びたい、そんな人に強くおすすめします。社会の役に立ちたい人、みんなで何か大きなものを作り上げていくのが好きな人、お祭り好きな人。消極的な自分を変えたい、殻を破りたい、何かを成し遂げたい、目的意識を持って成長したい、そんな人も歓迎します。

【受講するうえで、守るべきこと】

毎年、あたたかく迎え入れて下さる函谷鉾町の皆様への感謝の気持ちを胸に、あいさつを忘れず、目上の人に対する言葉づかいにも気をつけて下さい。宗教神事ですから、実習期間は黒髪での参加となります。重要文化財周辺は消防法により禁煙で、もちろん喫煙は不可です。平安時代に創始された祇園祭は、京都の伝統、日本の誇り。保存会の皆さんが長らく守り伝えてきた神聖な祭です。体験させていただく、という謙虚な心が大事です。

【スケジュール】

○●印は鉾町での現地実習。○印の実習については保存会の都合により日程が変更になることもあります。●印は各自が日・時間帯を選び、無理のない範囲で参加して下さい。

- 4/10（木）大学、授業。祇園祭とは。
- 4/24（木）大学、授業。祇園祭と函谷鉾。
- 5/ 8（木）大学、授業。函谷鉾の懸装品。函谷鉾検定。
- 5/15（木）★オンデマンド授業（動画視聴による学習）
- 5/22（木）大学、授業。保存会役員講話。
- 6/12（木）大学、授業。しきたり、覚えておくべきこと。函谷鉾検定（追試）。
- 6/21（土）祇園祭実習、保存会の皆さんとの顔合わせ。祇園囃子練習見学。函谷鉾ビル。
- 6/26（木）大学、授業。シフト登録。
- 7/ 初旬 祇園祭実習、粽（ちまき）づくり。7:30～昼すぎ、四条烏丸函谷鉾ビル。
- 7/10（木）大学、授業。祭の現場はどう動くのか。具体的なレクチャー。
- 7/12（土）祇園祭実習、鉾の曳き初め。詳細は決まり次第連絡、四条烏丸交差点付近。
- 7/13（日）祇園祭実習、宵山期間。8:30～22:00 頃まで、四条烏丸交差点付近。
- 7/14（月）祇園祭実習、宵山期間。8:30～22:00 頃まで、四条烏丸交差点付近。
- 7/15（火）祇園祭実習、宵山期間。8:30～23:00 頃まで、四条烏丸交差点付近。
- 7/16（水）祇園祭実習、宵山期間。8:30～23:00 頃まで、四条烏丸交差点付近。
- 7/17（木）大学、授業。振り返り。

【注意事項・その他】

毎年、テレビ局・新聞社・ラジオ局などからの取材が多い授業です。報道されることを前提として参加して下さい。※活動のようすはゼミのX（旧Twitter）で発信されます。

【実習にかかる費用】

不要。保存会Tシャツ（貸与）、実習中の昼食・夕食、夜食は保存会から提供されます。

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員：桐村 喬 専門分野：人文地理学	<この京都文化フィールド演習の特徴> この授業では、京都という都市がどのような「まち」から成り立っているのかについて学ぶとともに、まち歩きをしながら観察して、深く考えていきます。
B		
定員		
約 15 名		

【このような学生におすすめです】

京都は、さまざまな特色のある「まち」で成り立っている大都市です。この授業では、京都という歴史ある現代都市の特徴について学びながら、日常生活だけでは行くことが少ない、近隣も含めたいくつかの地域を「まち歩き」して、古い街並みなどを観察します。学生生活を過ごす京都というまちを深く学びたい人や、古い街並みを見て歩くのが好きな人におすすめです。



西陣



伏見



大津

【受講するうえで、守るべきこと】

フィールドワークは、原則、前後の講義の間の土曜日あるいは日曜日に実施します。フィールドワーク①のみ日程を決めていますが、②・③は授業内で調整します。フィールドワークでは、課題（作業）もしてもらいますので、ただ単に歩くだけでなく、教員の解説に耳を傾けながら、クリップボードなどを持参して、自分なりの発見をメモするようにしてください。このようなメモをもとに、自身の発見を深く掘り下げて考え、最終回にプレゼンしてもらいます。

【スケジュール】

- 第1回 (4月8日) イントロダクション
- 第2回 (4月15日) 講義①-1 大都市・京都の地理
- 第3回 (4月22日) 講義①-2 京都の街を構成する地域
- 第4~6回 (5月10日) フィールドワーク① 洛中・洛外：京都の「内」と「外」
- 第7回 (5月20日) 講義② 都市としての伏見
- 第8~10回 (日時は調整) フィールドワーク② 伏見の街並み：伏見のまちの中心部
- 第11回 (6月17日) 講義③ 東海道の宿場町・大津
- 第12~14回 (日時は調整) フィールドワーク③ 大津百町の街並み：宿場町の古い街並み
- 第15回 (7月15日) プレゼンテーション・授業のまとめ

※第1回と講義は教室での授業、フィールドワークは現地での授業となります。

【注意事項・その他】

やむを得ず授業を欠席する場合は事前に連絡してください。フィールドワークが他の授業と重なる場合には部分参加を認めます（欠席分の課題を課します）。また、フィールドワークの際には、歩きやすい靴、服装で臨んでください。

【実習にかかる費用】

3回のフィールドワークで現地に向かうための交通費が必要になります。現時点では予定がありませんが、施設等に入場することになった場合はその入場料等が必要になります。

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員： 山本 雅和 専門分野：日本考古学	＜この京都文化フィールド演習の特徴＞ 各時代の京都の遺跡・史跡の現地踏査を通じて京都の歴史・文化を学ぶ。
C		
定員		
約 15 名		

【このような学生におすすめです】

- ・ガイド本には掲載されない京都の歴史・文化・遺跡・史跡などについて詳しく知りたい。
- ・歩くことが好き。
- ・地域における文化財の保護や活用の実践を学びたい。

【受講するうえで、守るべきこと】

- ・授業日直近の土曜日または日曜日に現地踏査（午前中の3時間程度）を4回実施する。
- ・現地踏査の詳細については授業中および moodle で連絡するので、現地踏査の前日までに集合場所・集合時間を確認しておくこと。
- ・現地踏査は活動しやすい良識ある服装で参加すること。

【スケジュール】

第1回 授業の概要を紹介。受講生による京都の歴史・文化についての意見交換。

第2回 京都の遺跡・史跡について概説する。

第3～5回 北白川・吉田の古代

第6～8回 平安宮（平安時代）

第9～11回 上京の中世

第12～14回 寺町の近世・近代

※第3～14回は、①各フィールドの歴史・遺跡の概説（講義）→②現地踏査（学外実習）→③各フィールドの歴史・文化についての意見交換、の3回一組の授業で4つのフィールドについて学習する。各フィールドについてはレポートの提出を課題とする。

第15回 授業全体を総括して京都の遺跡・史跡について知識・認識を深める。

【注意事項・その他】

- ・現地踏査に同行できない場合は、個別に各フィールドを踏査して意見交換の授業に参加すること。踏査できなかった場合は、別に課題を出すことがある。
- ・演習科目なので5回以上の欠席は不合格とする。無断欠席厳禁（特に現地踏査）。

【実習にかかる費用】

- ・なし。

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員： 川島 智生 専門分野：建築史・都市史	<この京都文化フィールド演習の特徴> 京都の様々な建築を見学します。建物を見学する際のポイントを実際に実物をみながら学びます。また建物の内部に立入り、空間体験します。さらに町歩きすることで、町並みと建物の関係を考えます。
D		
定員		
約 10 名		
<p>【このような学生におすすめです】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都の建築と町並みに興味がある人。 ・ 京都の歴史に興味がある人。 ・ すまいの文化に関心がある人。 ・ インテリアや家具などのデザインが好きな人。 ・ 建物と人、地域との関係について考えたい人。 ・ 現地ならではの空間体験をしたい人。 <p>【受講するうえで、守るべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この授業は秋学期火曜4限の授業ですが、フィールドワークの際の現地と大学との往復を勘案して、火曜日の3限及び5限はできる限り他の授業を入れないようにしてください。 ・ 見学先は文化財指定の由緒ある貴重な建物が多く、見学の際は周りに細心の注意を払い、家具や装飾品を破損しないようにしてください。 ・ 現地でのフィールドワークの詳細については授業中および掲示等で連絡するので、前日までに必ず集合場所・集合時間を確認すること。遅刻・早退は厳禁です。 ・ 時間厳守はもちろん、見学の際の関係者に敬意を払う態度で臨むことを心掛けてください。 <p>【スケジュール】</p> <p>1 回:授業ガイダンス 2 回:京都町の見方、建築の捉え方 京都歴史の見方 3・4・5 回:第1回目の見学会 4.5時間を使い、京都観光の中心である東山界隈を見学、京都清水・清水寺・夢二カフェ五龍閣・パビリオンコート(旧山中商会美術館)など 6 回:第1回目の見学会で得られた知的好奇心の各自の発表 7 回: オンデマンド授業 8・9 回・10 回:第2回目の見学会 4.5時間を使い、産業観光 ニッシャと都ホテルなど 11 回:第2回目の見学会で得られた知的好奇心の各自の発表 12・13 回・14 回:第3回目の見学会 4.5時間を使い、高瀬川沿い(五條界隈・東華菜館・GATE HOTEL・祇園) 15 回:第3回目の見学会で得られた知的好奇心の各自の発表 ただし見学先の都合などにより、急に内容や順序、曜日の変更などをおこなう場合があります。</p> <p>【注意事項・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合う際には自分の意見をしっかり述べるとともに、他人の意見もしっかり聴くことが大切です。 ・ 各フィールド演習の後はレポートを作成することになります。 ・ 演習科目なので5回以上の欠席は不合格となります。 <p>【実習にかかる費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学先の入場料が必要な場合がある。 		

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員：村上 忠喜 専門分野：日本民俗学	＜この京都文化フィールド演習の特徴＞ 京都の住まいの文化に着目して、町家や農家などの住まい方やその維持、そしてそれを下支えする生業や技術継承の現場に学ぶ。
F		
定員		
約 15 名		
<p>【このような学生におすすめです】 京都の伝統的な生活文化、特に住まいと生業のかかわりについて、本気で調べたい、考えたい、そして感じたいと思っている学生さんにおすすめです。現代社会の中にしっかりと息づいている生活文化は、これからの「住まいの文化」にも大きな知見を与えてくれるでしょう。</p> <p>【受講するうえで、守るべきこと】 フィールドに出て相手と受け答えをすることが前提になりますので、時間厳守はもちろん、他者に敬意を払う態度で臨むことを心掛けてください。</p> <p>【スケジュール】 第1回 オリエンテーション 演習内容の説明年間スケジュールとイントロダクション 第2回 (講義) 京町家の歴史と民俗1 中世から近世にかけての京町家と町の移り変わりをみる。 第3回 ★(見学実習) 京町家 代表的な表屋造り京町家の実態と、現代の新たな維持管理体制の一形式を学ぶ。また山鉾町近辺の町と道と家の関係性について、通り、辻子、ロウジ、突抜を巡検して実感する。 第4回 (講義・グループワーク) 京町家の歴史と民俗2 第5回 (講義) 北山杉の育林技術 第6回 ★(見学実習) 北山杉の林業集落と山林景観の巡検を行い、林業家の収蔵施設見学、磨き丸太体験。 第7回 (講義) 文化財の保存技術 第8回 ★(見学実習) 屋根工事の技術と檜皮葺体験 第9回 (講義) 京都府下の民家 第10回 ★(見学実習) 宇治の茶商住宅 生業による民家の相違を、南山城の農村民家、丹波の山村民家、丹後の漁村民家を例に考える。 第11回 (グループワーク) 生業による民家の違い1 第12回 (グループワーク) 生業による民家の違い2：グループワークの報告会 第13回 (見学実習) 大学近郊の民家：社家町、上賀茂の農家住宅の見学 第14回 (講義) まとめとふりかえり</p> <p>【注意事項・その他】 ★印の授業は、相手先の都合により、日程が変更される場合があります。また見学実習は、現地への往復時間を含めれば、授業時間内に収まるものではありませんので、各自スケジュールの調整を必要とします。</p> <p>【実習にかかる費用】 宇治の茶商住宅見学の際に 300 円入館料が必要。それ以外は基本的にはありませんが、一部交通費の往復が 1000 円を上回る場合があります。</p>		

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員：マレス・エマニュエル 専門分野：日本庭園史	<この京都文化フィールド演習の特徴> 京都の様々な庭を見学します。目で見るだけではなく、所有者や職人など実際に庭を維持管理されている人たちの話を聞きながら庭園の歴史やその変遷、また人間と自然の関係について考えます。
G		
定員		
約 15 名		
<p>【このような学生におすすめです】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の建築と庭園に興味がある人。 ・京都の歴史に興味がある人。文化財に興味がある人。 ・水、土、石、動植物など、自然が好きな人。 ・積極的に調べて、考えたい人。 ・人と自然の関係、環境問題について考えたい人。 <p>【受講するうえで、守るべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学先は社寺や個人宅の歴史ある庭だったり、また職人の作業場だったりします。見学の際は周りに細心の注意を払い、案内してくれる人々に敬意を表しましょう。 ・見学前の注意事項を必ず守りましょう。 <p>【スケジュール】（学習の内容は、天候や演習先の事情により変更する場合か・ある。）</p> <p>第 1 回 授業の導入：年間スケジュールと授業概要【大学】</p> <p>第 2 回 日本庭園の見方 1、日本庭園の見方とは何か？【大学】</p> <p>第 3 回 日本庭園の見方 2、写真の撮り方【大学】</p> <p>第 4 回 日本庭園の見方 3、図面の描き方【大学】</p> <p>第 5 回 日本庭園の見方 4、庭園と建築の相互関係【大学】</p> <p>第 6 回 フィールド演習 1【寂庵見学予定】</p> <p>第 7 回 庭園の構成要素 1、地形【大学】</p> <p>第 8 回 庭園の構成要素 2、水【大学】</p> <p>第 9 回 フィールド演習 2【渉成園見学予定】</p> <p>第 10 回 庭園の構成要素 3、樹木【大学】</p> <p>第 11 回 庭園の構成要素 4、石【大学】</p> <p>第 12 回 フィールド演習 3【藪内燕庵露地見学予定】</p> <p>第 13 回 フィールド演習 4【西村石灯呂店見学予定】</p> <p>第 14 回 フィールド演習 5【金閣寺見学予定】</p> <p>第 15 回 授業のまとめと総括：「日本庭園を読む」【大学】</p> <p>【注意事項・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各フィールド演習の後はレポートを作成・提出することになります。 <p>【実習にかかる費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学先の入場料（藪内燕庵は普段非公開のところで、お茶とお菓子の提供があり、2200 円かかる。見学 5 カ所で合計 4000 円ほどになる見込み）。 		

【京都文化フィールド演習】

クラス		<p>＜この京都文化フィールド演習の特徴＞ お香を素材として取り上げ、その歴史や作成過程を学びます。また古典文学の中で「香り」や「匂い」がどのように描かれているかを読み解きます。特に『源氏物語』とのかかわりを学びます。その過程で自分の興味がある研究テーマを見つけ、授業内で発表してもらいます。</p>
I	担当教員： <small>クモオカ</small> 雲岡 <small>アズサ</small> 梓	
定員		
約 18 名	専門分野：古典文学・近世文学	
<p>【このような学生におすすめです】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お香文化・お香の歴史・お香の作り方・お香の原料などに興味がある人。 ●「香り」、「匂い」の文化に興味がある人。 ●お香工場を見学し、お香の原料などに触れてみたい人。 ●お香文化が古典文学の中でどのように描かれているか知りたい人。 ●古典文学が好きな人、これから学びたい人。 ●『源氏物語』についての知識を身に着けたい人。 <p>【受講するうえで、守るべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●香料に対するアレルギーがある人、お香の匂いで気分が悪くなったことがある人は、必ず担当者に伝えてください。 ●フィールドワークの際には指導して下さる学外の方の指示に従ってください。 (工場見学の際の携帯電話の使用等について) <p>【スケジュール】</p> <p>第1回：オリエンテーション 演習内容の説明 第2回：「香」について ★オンデマンド：『源氏物語』の受容について 第3回：『源氏物語』と「香」 第4回：フィールドワーク 株式会社松榮堂長岡京工場見学・お香製作体験 第5回：フィールドワーク 株式会社松榮堂長岡京工場見学・お香製作体験 第6回：株式会社松榮堂社長による特別講義 第7回：まとめと個人発表に関する説明 第8回：文献資料の調べ方 第9回：個人発表とディスカッション① 第10回：個人発表とディスカッション② 第11回：個人発表とディスカッション③ 第12回：個人発表とディスカッション④ 第13回：個人発表とディスカッション⑤ 第14回：個人発表とディスカッション⑥</p> <p>※フィールドワーク・特別講義等の順番は仮であり、受け入れ先の都合によって今後変更になる場合があります。</p> <p>【注意事項・その他】</p> <p>フィールドワークの工場見学には、歩きやすい靴で参加してください。</p> <p>【実習にかかる費用】</p> <p>なし。</p>		

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員： 高橋 早紀子 専門分野：日本美術史	＜この京都文化フィールド演習の特徴＞ 関西の美術館・博物館で開催されている注目の展覧会を見学し、実物を見ることを通して日本美術の魅力や鑑賞方法を基礎から学びます。
L		
定員		
約 15 名		

【このような学生におすすめです】

- ・日本美術が好きな方、美術館・博物館へ行くのが好きな方
 - ・日本美術の魅力や鑑賞方法を基礎から学びたい方
 - ・実物を見てそこから様々な情報を引き出し、“生きた知識”を身につけたい方
 - ・美術史学の研究手法を実践的に修得したい方
- *日本美術が好きな方はもちろん、鑑賞の方法がわからないという方も大歓迎です！

【受講するうえで、守るべきこと】

- ・集合時間および美術館・博物館での鑑賞マナー

【スケジュール】

第1回 オリエンテーション

授業内容やスケジュールを確認し、授業についての共通認識を形成します。アイスブレイクを通して、主体性や協働性・協調性を発揮できる雰囲気づくりを行います。

第2～5回 展覧会解説

見学を行う展覧会について、概要や見どころ、主要作例の美術史上の位置づけなどを基礎から学びます。

第6～13回 フィールドワーク

展覧会の見学を通して日本美術の魅力や鑑賞方法を学び、主体的に見て考える力をつけます。

第14回 プレゼンテーション

課題レポートに基づき、独自の視点や問題意識を提示します。他の受講生の発表を踏まえ、多角的視点や多様な問題意識を醸成します。

★オンデマンド 当該年度開催の展覧会

当該年度開催の展覧会を取り上げ、概要や見どころについての解説をオンデマンド授業で行います。オンデマンド授業は、約90分の動画を4月30日までにTeamsで配信します。

【注意事項・その他】

- ・見学会予定（変更の可能性あり）は、下記の通りです。
4/27（日）：泉屋博古館、京都国立博物館（2コマ分）
5/8（木）：茶道資料館
6/1（日）：奈良国立博物館（2コマ分）
6/8（日）：大阪市立美術館（2コマ分）
- ・見学会の費用（交通費・入館料等）は、自己負担とします。
- ・授業実施日については、見学会日程を含め、初回授業時に通知します。

【実習にかかる費用】

- ・見学会の費用（交通費・入館料等）

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員：成田 智恵子	<この京都文化フィールド演習の特徴> 京都の伝統産業に関連する工房やミュージアムを訪問します。伝統工芸品やその制作工程、職人の技能を直に観察し、京都の伝統産業に内在する知恵について学びます。
M		
定員		
約 15 名		

【このような学生におすすめです】

- ・ 京都の伝統産業、手仕事、職人に興味がある人
 - ・ 人々の願いを支えるものづくりに興味がある人
- 本演習ではまず京都市の伝統産業について幅広く学びます。その後、木工芸・金属工芸・漆工芸等の様々な工芸技術を駆使した総合工芸品である仏壇・仏具、信仰の対象となる仏像、そして日本独自の漆工芸の加飾技法である蒔絵について学びます

【受講するうえで、守るべきこと】

- ・ 学びの対象に興味関心と敬意を持って受講してください
- ・ 授業内で意見交換や質疑応答等を行いますので、積極的かつ自律的な行動を求めます
- ・ 必ず時間を守り、自己管理に努めてください

【スケジュール】

第1回	4/8	(火)	ガイダンス [講義・大学]
第2回	4/15	(火)	京都の伝統産業 概論1 [講義・大学]
第3回	4/22	(火)	京都の伝統産業 概論2 [講義・大学]
第4回	4/26	(土)	フィールドワーク1 [演習・京都伝統産業ミュージアム]
第5回	4/29	(火)	講義 [大学]
第6回	5/13	(火)	講義 [大学]
第7・8回	5/17	(土)	フィールドワーク2 [演習・京仏壇・京仏具製作所/東本願寺見学]
第9回	5/27	(火)	講義 [大学]
第10回	6/3	(火)	講義 [大学]
第11回	6/7	(土)	フィールドワーク3 [演習・仏像彫刻工房]
第12回	6/17	(火)	講義 [大学]
第13回	7/1	(火)	講義 [大学]
第14回	7/5	(土)	フィールドワーク4 [演習・京蒔絵工房]
第15回	7/15	(火)	講義 [大学]



【注意事項・その他】

- ・ フィールドワーク先では、許可なく撮影・録音をしてはいけません
- ・ 工芸品を扱うため、学外演習時は時計やアクセサリー、ネイル等を付けることはできません
- ・ フィールドワークは原則土曜日に行う等、変則日程になりますのでご注意ください

【実習にかかる費用】

- ・ 第4回：京都伝統産業ミュージアム入館料（第1回の講義で説明します）

【京都文化フィールド演習】

クラス	担当教員：中野 宏幸 専門分野：観光人類学、観光産業、都市・社会基盤学	<p><この京都文化フィールド演習の特徴> 京都の寺社や自治体、地域の方々への訪問、ガイド活動への参加を含む「まちあるき」を通じ、京都を体験していきます。京都の魅力を多様な「まなざし」でとらえ、街をみる感性を磨きつつ、これからの交流や地域づくりの取組を考えてみましょう。</p>
N		
定員		
約 15 名		

【このような学生におすすめです】

歴史・伝統文化、地域の生活や産業、ヒトの流れや交通の機能、地域を支える仕組み・行政など、多面的に地域に接し、街への理解を深めていこうとするクラスです。次のような方にお勧めします。

- ・まず「街」を探索してみようと思う、「まちあるき」が好きな人。
- ・自分で実際に見て、聞いて感じとることが大切と思っている人。
- ・「どこが変わってきているのか」「それはなぜなのか」考えながら、新しいものを発見しようとする人。変化を感じ取りつつ、何かできないか、意欲的に考える人。

【受講するうえで、守るべきこと】

- ・交通安全対策を含め、フィールドワークのルールを守ってください。
- ・グループでコミュニケーションをよく図り、協力して取り組みましょう。

【スケジュール】

- 第1回 (4/11 (金)) ガイダンスと各自の自己紹介
 - 第2回 (4/18 (金)) 講義 (事前準備) とグループ学習
 - 第3回 (4/26 (土)) [フィールドワーク] 五条界隈のまちあるきと街の移り変わりの探索
 - 第4回 (4/27 (日)) [フィールドワーク] 清水寺訪問と懇談
 - 第5回 (5/9 (金)) 「見方」「聞き方」「まとめ方」に関する基本的学びと活動の振り返り
 - 第6回 (5/11 (日)) [フィールドワーク] 平安神宮、南禅寺方丈庭園など岡崎地区のまちあるき、「禅」を含む訪日外国人への英語によるガイド活動・体験に関するガイドとの懇談
 - 第7回 (5/24 (土)) [フィールドワーク] 詩仙堂と金福寺訪問、歴史文化の学び
 - 第8回 (5/30 (金)) 講義 (事前準備) とグループ学習
 - 第9回 (6/7 (土)) [フィールドワーク] 東山のまちあるき (建仁寺、六波羅蜜寺や六道珍皇寺など寺社訪問、東山区役所の観光の取組把握)
 - 第10回 (6/13 (金)) フィールドワークの整理とグループ討議
 - 第11回 (6/14 (土)) [フィールドワーク] 京都駅訪問と企業 (JR 西日本) との懇談
 - 第12回 (6/28 (土)) [フィールドワーク] 赤山禅院訪問と懇談
 - 第13回 (7/4 (金)) 観光の行政担当者 (国土交通省近畿運輸局観光部) とのワークショップ
- ※) この授業後、フィールドワーク等を踏まえたレポートの作成と発表の準備を行います。
- 第14回 (7/11 (金)) 発表と総括

【注意事項・その他】フィールドワークの日時を含めて授業内容や形態・方法は、状況により変更となることがあります。訪問先の方々の貴重な時間をいただき、質疑や懇談の時間を設けるので、事前に質問やコメントの準備をしておいてください。事前に関係の情報収集をするなど、主体的にのぞんでください。フィールドワークは、土日に行います。

【実習にかかる費用】

拝観料 <2024年度のフィールドワーク
：京都駅 (左)、詩仙堂 (右) >
2024年度のフィールドワークについては
以下のキャンパスフラッシュをみてください。



https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2024_fcsi/20240704_190_nakano_s.html

https://www.kyoto-su.ac.jp/news/2024_fcsi/20240601_190_nakano_s.html

【京都文化フィールド演習】

クラス		<p>＜この京都文化フィールド演習の特徴＞ 京都の奥深い歴史や社寺史跡の魅力を学ぶだけではなく、観光ツアーとして商品化するノウハウや、観光ガイドツアーの実践を通して、実際の観光業界に触れることができる演習を実施します</p>
○	担当教員：若村 亮	
定員		
約 15 名	専門分野：着地型学習観光学	
<p>〔このような学生におすすめです〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の奥深い歴史や社寺史跡を巡ることが好きな人 ・観光ツアー（社寺史跡を歩いて巡る着地型ツアー）の企画立案のポイントを学びたい（現地で実施するフィールドワークのコースを学生自らで検討・調査して決定する） ・観光ツアーにおける商品力や付加価値を高めるポイントを学びたい ・観光ツアーに欠かせない観光ガイドを通じたプレゼンテーション能力を高めたい人（現地で実施するフィールドワークでは拝観する社寺の観光ガイドにもチャレンジ） <p>〔受講するうえで、守るべきこと〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【現地】でのフィールドワークは、歩きやすい観光に適した服装や靴で参加すること ・【現地】でのフィールドワークは、社寺の文化財保護への配慮や注意を怠らないこと <p>〔スケジュール〕</p> <p>①【大学】講義：演習内容の全体ガイダンス、フィールドワーク演習へ向けた全体講義</p> <p>≪ フィールドワーク① ≫</p> <p>②③④【現地】フィールドワーク①（社寺史跡を歩いて巡る着地型ツアーを実施）</p> <p>≪ フィールドワーク② ≫</p> <p>⑤⑥【大学】講義：フィールドワーク②へ向けた講義（散策コース検討・調査）</p> <p>⑦⑧⑨【現地】フィールドワーク②（社寺史跡を歩いて巡る着地型ツアーを実施）</p> <p>⑩【大学】講義：フィールドワーク②の振り返り</p> <p>≪ フィールドワーク③ ≫</p> <p>⑪【大学】講義：フィールドワーク③へ向けた講義（散策コース検討・調査）</p> <p>⑫⑬⑭【現地】フィールドワーク③（社寺史跡を歩いて巡る着地型ツアーを実施）</p> <p>⑮【大学】講義：フィールドワーク③の振り返り、演習まとめ&全体総括</p> <p>〔注意事項・その他〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【大学】での講義は水曜日5限を予定 ・【現地】でのフィールドワークは土曜または日曜の午後を予定 <p>〔実習にかかる費用〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拝観する社寺史跡の拝観料や入場料など 		